

地域園芸クラブの活動と自然観察学習園のあゆみ

清明丘小学校の自然観察学習園は、西運動場の一角にあります。

小学校創立100周年を記念の事業の1つとして、当時PTAをはじめ児童、教職員、そして地域の方など沢山のボランティアの方々の手によって、全くの手づくりで完成しました。



自然観察学習園



以来、この「自然観察学習園」は季節の花や野菜、昆虫の観察ができ、5年生で田植えから稲刈りまでの体験をする児童の学習の場として活用されています。

地域園芸クラブは、潤いある自然観察学習園の維持・管理のお手伝いを、ボランティアで協力し、小学校課程の教科書で学ぶ植物が、遠くに行かなくても学校内ですべて観察することができるようになることを目標とし、子どもたちが実際にふれあえるよう心を配りながら楽しい活動を行なっています。

I. 自然観察学習園ができるまで

「自然にふれて、生命の尊さを理解できる子どもたちに」との願いをこめた自然観察学習園(以下、観察園)の建設は、西運動場で老朽化していたフィールド・アスレチックのところで、平成9年(1997)よりはじまり、腐食した廃材の処理や樹木の撤去作業ののち、平成12年(2000)になると新しい土やじゃりを運び入れ、田んぼができ、観察園での米作りがはじまります。木々や草花の植栽がはじまるのを機にPTAと地域には回覧板で広く、百周年記念実行委員会より「自然観察学習園併設園芸クラブ」と称したクラブ員の募集が行われました。

- ① 学校の植栽計画と連携しながら、潤いある園芸活動を行う。
- ② 互いの親睦を高めながら、作物の栽培だけでなく広く児童の学習活動に参加したり、学習園全般の環境保全にも協力していくことを目的とし、「清明丘小学校地域園芸クラブ」が結成されます。

池や川も自分たちでコンクリートを練り、作り、木々を植え、草花の苗や球根の植え付けをしました。10月には初めての稲刈りがあり、記念式典では観察園の初収穫の「丘のたんぼの稲」として配布されました。

こうして平成13年1月20日に記念式典が催され、「自然観察学習園」竣工の日を迎えます。学校、PTA、地域園芸クラブで観察園の管理と植栽計画などが話し合われる「自然観察学習園運営委員会」も発足し、耐久的な存続をめざすこととなります。



Ⅱ. 自然観察学習園のようす



毎年 5 年生が米作りを学ぶ「たんぼ」が観察園の中心にあり、その「たんぼ」からあふれた水はあたりを潤し、川から2つの池(とんぼ池、かえる池)へ注がれ循環されています。阪堺線の枕木の廃材を利用してつくった段々畑にはなにわ伝統野菜をはじめとする野菜やイチゴなどを植え、西運動場の芝生に面した子どもたちからよく見える花のエリアには、茶の木や秋の七草をはじめ四季折々の花を年間を通して彩りがあるように栽培しています。あおむし〜蝶々、ヤゴ〜トンボ、バッタやカマキリなどの虫やカエルやイモリなどもみつけることができます。



たんぼや池や川も、改修や池の増設、修理など経て、「自然観察学習園」は文字通り子どもたちが自然を観察することができる場所となり、設立当初の目標であった「潤いある観察園」が持続されています。自然の生態系を身近に感じられる**ビオトープ**のエリアと「野菜づくり、花づくり」のエリアを持つことで人が集い、自然に出会え、楽しんで維持することを持続しており、まさに ESD(持続可能な発展のための教育)が実践された環境教育の場となったことを誇りに思います。

Ⅲ. 自然観察学習園の植栽

観察園発足当初に、アゲハチョウの観察をするために柑橘類が植えられるなど、子どもたちが都会の中でも自然にふれることのできる環境づくりを念頭に、教務の先生、PTA、園芸クラブと一緒に苗木や球根など買い求めておられたようです。その後、池や田んぼを学校管理のエリアとし、地域園芸クラブでは割り当てられた用地に子どもたちに見せるための季節の花や野菜を植え、教科書に出てくる植物を校内で見ることができるようになることを大きな目標としています。

(1) 樹木

さくら、みかん、ゆず、きんかん、かりん、くぬぎ、はなみずきなどがあり、秋には紅葉を愛でることができます。



(2) 草花

観察園では種まきや球根の植え付けをしたチューリップやヒヤシンス、パンジーなどだけでなく、自然に生えたつくし、たんぽぽ、よもぎ、エノコログサ、おいぬふぐり、ごぎょう、ほとけのぞ、クローバー(シロツメクサ)など。初夏から夏にかけて、あじさい、ひまわり、グラジオラス、矢車草など。その後コスモスや秋の七草(萩、おみなえし、河原なでしこ、桔梗、フジバカマ、すすき)やわれもこう、ひがんばん、すいせんなど、四季の彩りを楽しめます。

(3) 野菜(なにわ伝統野菜、トマトなど)

平成20年(2008)、「天王寺かぶらでっせ」や「なにわ伝統野菜のおはなし」の絵本を書かれた志村敏子先生のご家族がクラブ員になられた関係から天王寺かぶらと田辺大根を種まきし、初めてなにわ伝統野菜を収穫し、味わうことができました。翌春、天王寺かぶらが黄色い花を咲かせ、菜の花であったことに気付かされました。



この年(2009)ユネスコ・スクール加盟をとの話があり、地域園芸クラブはESD(持続可能な発展のための教育)の実践を念頭に「なにわ伝統野菜」の栽培を進めることとなります。栽培したもの(いのち)をいただくことで自然を尊び、大阪の歴史や文化、環境を学ぶことができます。なにわ伝統野菜の植栽は、浪速魚菜の会、なにわ伝統野菜応援団・天王寺かぶらの会や田辺大根ふやしたろう会など復活にとりくんでこられた団体の方々や、なにわ伝統野菜生産農家の方から種や苗をわけていただきながら進めてきました。子どもたちだけでなく大人も学びながら試行錯誤で勝間南瓜、玉造黒門越瓜、毛馬きゅうり、吹田くわい、金時人参、うすいえんどう、鳥飼なす、難波ねぎなど。また水なす、泉州玉ねぎなどの大阪の特産物のほか、トマト、枝豆やスイカ、水菜、ジャンボ・カボチャなど、その年、その季節でのチャレンジは続いています。



春の天王寺かぶら



生産者農家さんとの連携も!

IV. 地域園芸クラブの活動

地域園芸クラブは、自然観察学習園の維持管理のお手伝いをボランティアで協力し、子どもたちに見せるために花や野菜の栽培をしており、育てた野菜は収穫して おいしく収穫祭をしています。

さらにホームページを開設し、観察園のようすをブログでリアルタイムに発信することを行っています。また植栽と食文化に関わる勉強会も兼ね大人の遠足など親睦を図っています。

本年地域園芸クラブは 20 年を迎え、地域の「男の料理」の方々がメンバーに加わり、低学年プール跡地に土壌改良剤を投入し開墾され、校長先生の枝豆や 2 年生のさつまいもとともに、ハロウィン用ジャンボ・カボチャ、トウモロコシやトマトなど様々な野菜も栽培することとなり、益々の発展が期待されます。



- 2010 なにわ伝統野菜のおつけものづくり
石橋明吉さんと勝間南瓜植え付け
秋の収穫祭 秋の七草栽培へ！
- 2011 よもぎだんごづくり
石橋さんによるなにわ伝統野菜講座
つけものづくり、難波ネギそうめん
(夏休み収穫祭3回)
野路菊 御田植神事見学
- 2012 片葉の葎 ガマの穂移植
- 2013 ハルカスキッチン親子料理教室(凜々子)
勝間南瓜で和食
勝間木綿の綿くりと糸つむぎ
ハルカスファーム試験栽培
- 2014 お茶の木を植える
勝間木綿の綿くりと機織り
- 2015 草木染め ハロウィン秋祭りはるまき
おせち料理づくり
- 2016 SF 高校生アンバサダーと流しそうめん
- 2017 草木染め 秋の七草咲きそろう
- 2018 キムジャン、しじみがり
お茶の学習事前勉強会→お茶の授業
- 2019 大人の遠足(堺 利晶の杜ほか)
さつまいも授業 桜の木で黒板工作、リースづくり
- 2020 低学年プール跡地を畑に！(野菜栽培エリア拡大)
地域園芸クラブ 20周年記念誌発行(予定)

できごと

2010 西運動場芝生化



ホームページの開設

<http://seimeigaoka.com>

ブログ随時更新

<http://chiikiengeiclub.sblo.jp>

2012

自然観察学習園運営委員会規約改定

2013 ユネスコ・スクール認定
ESD 環境学習の場へ

2017 池の修理



2018~2019.3 プールの改修

